

日本細菌学会
2021年第3回理事会 議事録

●日 時：2021年12月21日（火） 12：00～15：30

●実施形態：web会議（zoom形式）

●出席者：赤池孝章 理事長、

河村好章、菊池 賢、寺尾 豊、飯田哲也、小椋義俊、垣内 力、川岸郁朗、金城雄樹、小松澤 均、
富田治芳、内藤真理子、中根明夫、長宗秀明、東 秀明、藤永由佳子、横田伸一 各理事
大崎敬子、柳澤直子 両監事

松下 治 第94回総会長、荒川宜親 名誉会員選考委員長、大原直也 学会賞選考委員長

※五十音順 敬称略

I. 開会（理事長挨拶）

赤池理事長より開会の挨拶がなされた。

II. 確認事項

前回理事会、評議員会、会務総会の議事録（案）について

追加修正なく議事録は確定した。

III. 総会報告

1) 第94回総会終了報告（松下 治 総会長）

資料の通り、第94回総会の終了報告がなされた。

2) 第95回総会準備状況報告（菊池 賢 総会長）

第95回総会の開催方式、予算、プログラムなどの準備状況について説明がなされた。

3) 第96回総会準備状況報告（飯田哲也 総会長）

第96回総会の準備状況の報告があり、3月16日～18日にアグリエひめじ（姫路市文化コンベンションセンター）において対面での開催を予定している旨説明がなされた。

IV. 報告事項

1) 総務部会報告

①総務・渉外担当報告（河村理事）

会員の現況などについて報告がなされた。

②選挙関連担当報告（金城理事）

学会賞選考委員会委員選出選挙の結果について、配布資料の説明がなされた。

法人化に向けて選挙方法についての検討が今後必要となる旨が追加で説明された。

2) 財務部会報告

①会費・会計担当報告（河村理事）

2021年度の間決算について配布資料の説明がなされた。

3) 広報部会報告

① 広報・メディア分野担当報告（河村理事）

特になし。

② HP・SNS 分野担当報告（川岸理事）

特になし。

4) 産官学連携部会報告

① 産官学連携分野担当報告（菊池理事）

担当理事から総会での産学官連携セッションの企画について説明があった。赤池先生から、ベンチャー企業等との連携セッションを積極的に企画することが提案された。

5) 学術部会

① 学術支援・評価担当報告（長宗理事）

特になし。

② 学術企画分野

1. シンポジウム等企画担当報告（長宗理事）

長宗先生から第95回総会のシンポジウム等企画について報告がなされた。

シンポジウム等企画内容の決定方法に関する意見があり、長宗委員長を中心として委員会等で継続して議論する事となった。

2. バイオセーフティ担当報告（飯田理事）

病原体等安全取扱・管理指針の改定についての進捗状況の報告がなされた。特にBSL表のアップデートを河村副委員長を中心に各委員で修正・確認を行っている旨説明がなされた。今年度中を目処に完了し、有料の冊子体を発行する予定であることが説明された。

また、河村理事から国際命名委員会により、細菌の公式な phylum 名が決定された旨説明があった。これまで非公式で用いられてきた phylum 名の一部が変更されており、今後ホームページや総会時等で学会員に周知することが提案された。

3. ICD 制度協議会等担当報告（菊池理事）

特になし。

③ 学術交流分野

1. 日本微生物学連盟／日本学術会議担当報告（金城理事）

特になし。

2. 日本医学会連合担当報告（菊池理事）

特になし。今後、担当が菊池理事から金城理事変更されることとなった。

3. 予防接種推進専門協議会担当報告（菊池理事）

特になし。

6) 教育部会報告

①次世代教育・人材育成担当報告（垣内理事）

若手コロッセウムの終了報告がなされた。

②教育資源発掘・保存担当（内藤理事）

特になし。

7) 出版部会報告

①学会誌担当報告（藤永理事）

特になし。

②M I 誌担当報告（寺尾理事）

IF 向上に関する取り組みについて配布資料の説明がなされた。

③用語集担当報告（富田理事）

分類変更に関する対応について説明がなされた。

8) 国際交流部会報告

①IUMS 等担当報告（東理事）

特になし。

②日韓微生物等担当報告（小松澤理事）

特になし。

9) 社会交流部会

①研究倫理・安全保障分野担当報告（赤池理事長）

特になし。

②利益相反担当報告（中根理事）

特になし。

10) その他

特になし。

V. 審議事項

1) 名誉会員選考結果について

荒川委員長から資料の通り、名誉会員選考委員会の報告がなされ、委員会として野田公俊先生、山本友子先生の2名が名誉会員候補者として推薦された経緯が説明された。赤池理事長から両氏の細菌学会における貢献に関して追加で補足説明があった。異論はなく承認された。

2) 学会賞選考結果について

大原委員長から配布資料に沿って学会賞選考委員会の報告がなされた。委員会から 2022 年度浅川賞受賞候

補者として林 哲也氏（九州大学）が推薦され、理事会で承認された。また、小林六造記念賞の受賞候補者として3名の応募者の中から小川 道永氏（国立感染症研究所）が選出され、黒屋奨学賞の受賞候補者として6名の応募の中から、阿部 隆一郎氏（大阪大学）と氣賀 恒太郎氏（自治医科大学）の2名が選出された。大原委員長より選考理由の説明がなされ、理事会で承認された。

選考方法や応募要領等の改善について、次回理事会において選考委員を兼ねている理事から改めて審議事項として挙げていただくこととなった。

3) 学会賞選考委員会運営内規について（前回理事会継続審議）

内規第 29 条の「委員は原則として、推薦者になることはできない」において、「原則として」を削除することの提案がなされたが、協議の結果、内規の変更ではなく、当面は委員会の運営で対応しながら継続して審議することとなった。

4) 第 95 回総会の「他団体との共催プログラム」について

赤池理事長から昨年度に他団体との共催に関して生じた齟齬の報告があり、金城先生から具体的な内容の説明があった。今後、共催については事務局や理事会での確認を必要とし、細菌学会としての取り決めを明文化することとなった（金城理事が担当）。

5) 第 95 回総会「中・高校生研究発表セッション」の発表校紹介動画について

河村理事より、総会での発表の前に学校紹介ムービーを流す趣旨について説明があった。異論なく承認された。

6) 「中・高校生研究発表セッション」発表者からの指導要望への対応について

河村理事より、安全性等を含め、細菌学会として指導してはどうかという提案があった。寺尾理事、垣内理事が担当することとなり、理事会で異論なく承認された。なお、学会としては口頭での指導に留めることが確認された。

7) 日韓シンポジウムについて

小松澤理事より、配布資料の説明がなされた。次回は韓国側での開催の予定であるが、韓国側の対応が定まっておらず、2021 年度の開催は見送られた。2022 年度以降の開催について先方の意向を継続して確認することとなった。

8) 日本農芸化学会との連携シンポジウムの共催（2023 年）について

小松澤理事より、配布資料の説明がなされた。2023 年の農芸化学会と細菌学会の双方での口腔内細菌叢に関する連携シンポジウムの共催が提案され、異論なく承認された。

9) 細菌学若手コロッセウムの運営費用について

河村理事より、配布資料の説明があった。今後、細菌学会が若手コロッセウムに支出した支援金は返還せずに全額執行してもらうように依頼することが提案され、承認された。

10) 細菌学映像素材集第 4 版の増刷について

内藤理事より、細菌学映像素材集第 4 版の改訂と増刷について説明があり、50 部の増刷費用を次年度予算に計上することが提案され、承認された。

11) 法人化について

事務局から配布資料に沿ってこれまでの経過が説明された。赤池理事長から法人化の意義と今後の検討に関するスケジュールの説明がなされ、2024 年 1 月から一般社団法人 日本細菌学会をスタートさせる計画が提案された。次回理

事会で継続審議することとなった。

12) 日本細菌学会と口腔保健協会の契約（2022年）について
事務局から2022年度の契約について配布資料の説明があり、承認された。

13) 日本細菌学会と中西印刷株式会社の契約（2022年）について
事務局から2022年度の契約について配布資料の説明があり、承認された。

14) その他

金城理事より、日本微生物学連盟の野本賞に関して配布資料の説明がなされた。

赤池理事より、2月下旬から総会の1週間ぐらい前の間に次回理事会を開催する予定が説明された。

VI. 閉会

赤池理事長から閉会の挨拶がなされた。